

個人投資家さま向け

# 百十四銀行会社説明会

---

2024年12月5日

ひゃくじゅうしぎんこう



百十四銀行

(東証プライム：証券コード8386)



■ 百十四銀行について

■ 決算ハイライト

■ 成長戦略

■ 中期経営計画の見直し

■ 株主還元



## 百十四銀行について

決算ハイライト

成長戦略

中期経営計画の見直し

株主還元



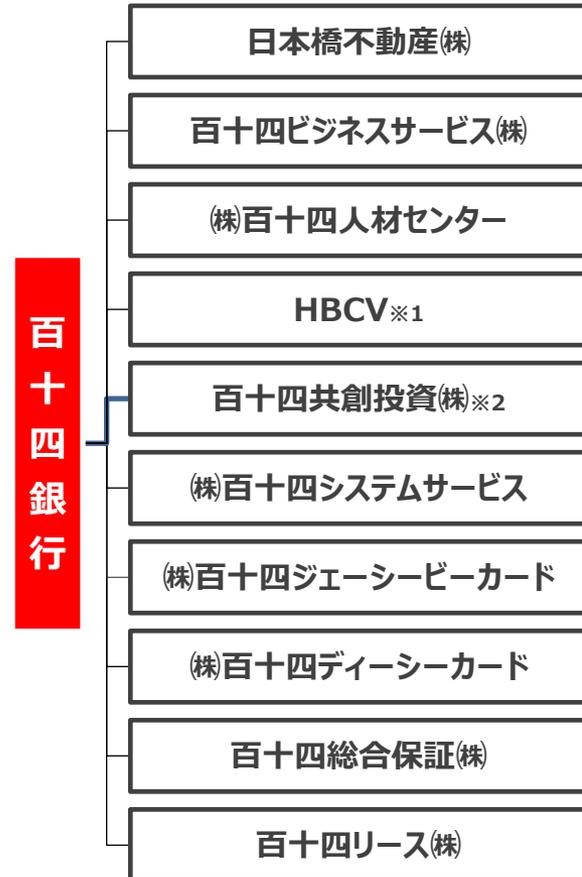
- 百十四銀行は1878年（明治11年）に香川県で創業し、146年の歴史を誇る地域金融機関です。

## 会社概要

2024年9月末現在

本店所在地	香川県高松市亀井町 5 番地の 1
創業	1 8 7 8 年 1 1 月 1 日
総資産	5 兆 7 , 5 0 0 億円
総預金	4 兆 7 , 0 1 8 億円（譲渡性預金含む）
貸出金	3 兆 4 , 6 0 6 億円
資本金	3 7 3 億円
発行済株式総数	2 8 , 6 3 0 千株
従業員数	2 , 1 9 3 人（グループ全体）
店舗数	1 3 3 店舗 （店舗内店舗・クイックスクエア含む）

## グループ会社

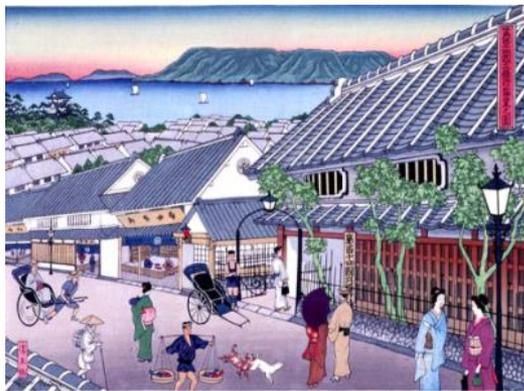


※1 HYAKUJUSHI BUSINESS CONSULTING VIETNAM COMPANY LIMITED の略称

※2 2024年4月1日設立

# 百十四銀行の歴史

- 1872年（明治5年）に公布された国立銀行条例に従い、1879年（明治12年）までに153の国立銀行が設立されました。このうち、高松市に114番目に設立されたのが、当行の前身である第百十四国立銀行です。
- 今では数少ない国立銀行条例に基づき設立されたナンバーバンクのひとつです。



創業当時の建物（1887年頃）  
「第百十四国立銀行盛業の図」  
三井淳生画



旧本店  
（現在の高松支店）



空襲で被災した旧本店



現在の本店ビル

1872年 国立銀行条例が公布

1878年 第百十四国立銀行として創業

1948年 商号を(株)百十四銀行に変更

1966年 本店を現在地へ移転

1973年 東証一部上場

1978年 創業百周年  
預金残高1兆円達成

2016年 四国アライアンス包括提携

2019年 百十四SDGs宣言

2022年 東証プライム市場移行

2024年 創業146年

- 香川県は本州と四国を結ぶ交通や物流の玄関口として重要な位置にあります。
- 瀬戸内の穏やかで豊かな自然や国際的な芸術祭など世界から注目もされ、訪日外国人旅行者は増加傾向にあります。

## 高速道路と鉄道で本州とつながる玄関口



- 香川県と岡山県をつなぐ、高速道路と鉄道上下2層の併用橋としては、世界最長。
- 現在3ルートある本州四国連絡橋で最も早く1988年に開通。



## 国際線による旅客数 (2023年度)

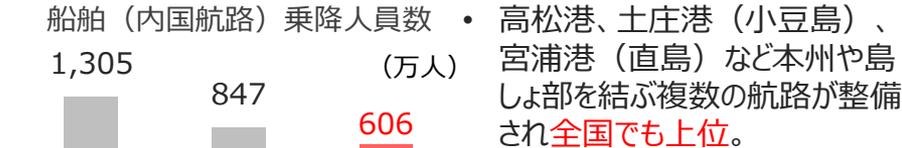
空港名	乗客数 (人)
成田国際	26,002,234
東京国際 (羽田)	19,099,508
関西国際	18,975,467
福岡	7,065,600
中部国際	3,215,600
新千歳	2,902,428
那覇	2,028,792
仙台	373,787
<b>高松</b>	<b>261,340</b>

**9位/全国97空港中**



アジアとつながる西日本の拠点として**旅客数は増加**

## 船舶による人の往来



**3位/全国**

出典：国土交通省「港湾調査 港湾統計 (年報) 2022」

## 穏やかな気候と豊かな自然

- 1年を通じて日照時間が長く、降水量も少ない瀬戸内特有の温暖な気候。
- 自然災害被害額は、**少ない方から** 全都道府県で**5位**と低位。



## うどんを愛する県民性

人口1万人あたりの「そば・うどん店」事業所数 (箇所)

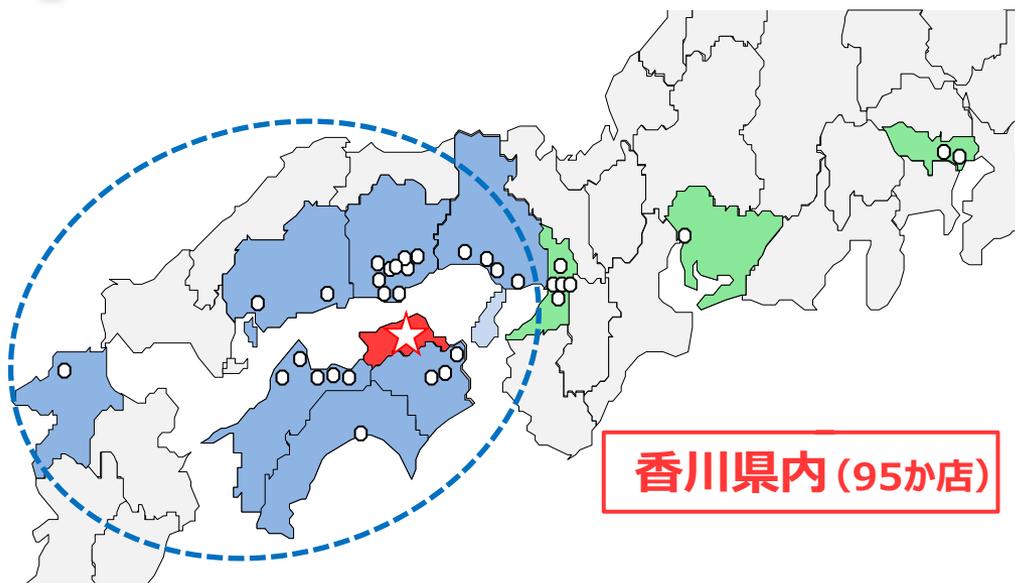
1世帯あたりの「日本そば・うどん」の年間支出金額 (千円)



出典：総務省統計局「令和3年経済センサス」「2023年家計調査」

- 香川県を基盤とし、戦後の復興期に大都市圏への出店を進め、現在11都府県において広域店舗展開をしています。
- 大都市圏や広域瀬戸内圏でも各地域に根差した営業を行っております。

## 11都府県の広域店舗網 (店舗内店舗・クイックスクエア・コンサルティングプラザ含む 2024年9月末時点)



### 広域瀬戸内圏 (30か店)

岡山県 13か店 兵庫県 4か店  
 愛媛県 5か店 広島県 2か店  
 徳島県 3か店 福岡県 1か店  
 高知県 2か店

### 大都市圏 (8か店)

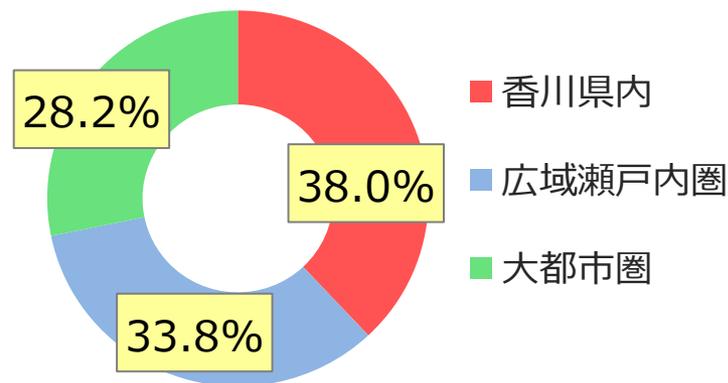
東京都 2か店  
 愛知県 1か店  
 大阪府 5か店

※ 広域瀬戸内圏 [ 愛媛県、徳島県、高知県、岡山県、兵庫県、広島県、福岡県 ]

※ 大都市圏 [ 東京都、愛知県、大阪府 ]

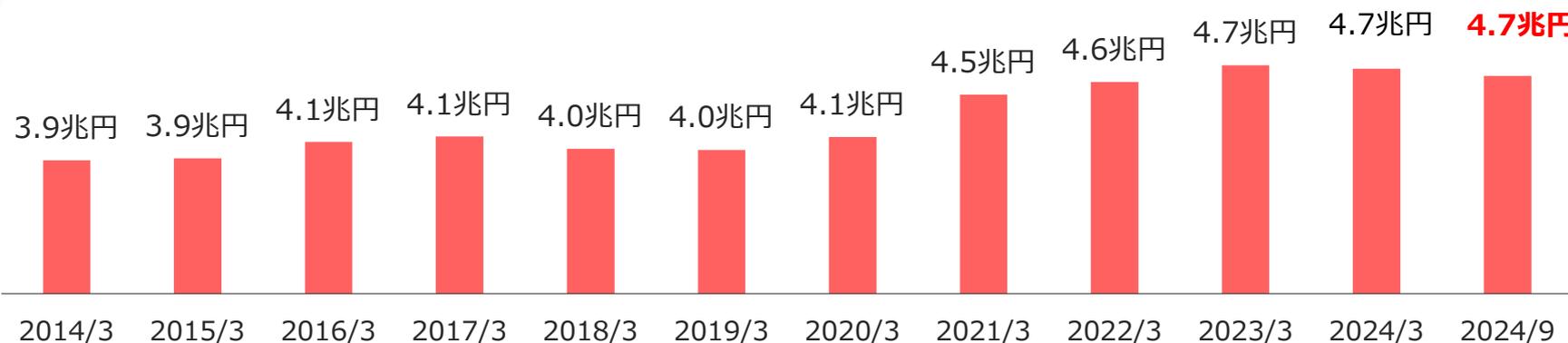
開設年	支店名
1950年	大阪支店
1952年	岡山支店
〃	東京支店
1958年	広島支店
1961年	神戸支店
1964年	名古屋支店

## 地域別の貸出金割合 (2024年9月期)

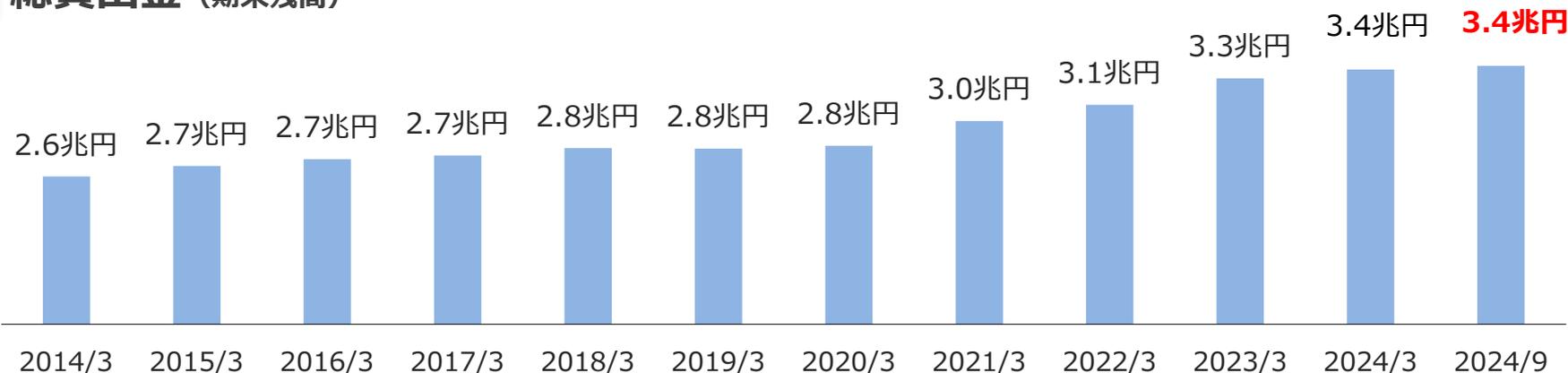


- 香川県における強固な営業基盤と広域店舗展開により、総預金・総貸出は順調に増加し、2024年9月期の残高は、2014年3月期との対比で総預金は118%、総貸出金は132%となっております。

## ■ 総預金 (期末残高)

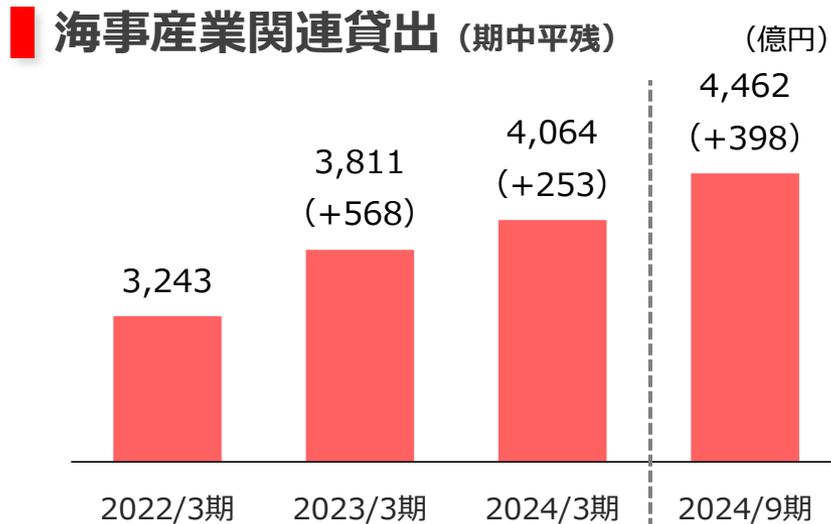


## ■ 総貸出金 (期末残高)



# 注力領域①（海事産業の成長支援）

- 瀬戸内は世界的な海事産業の集積地であり、当行は地場産業として古くより注力し、造船・船舶部品製造・シップファイナンス等の海事産業関連貸出に関する審査や融資手法のノウハウを蓄積しています。
- 長期的視点から成長支援に注力し、海事産業関連貸出金は順調に増加しています。



※（ ）内は前期比増減

船舶の大型化や環境規制対応など、海事産業を取り巻く厳しい環境下も、審査やリスク管理の高度化を図り、長期的視点で支援をしています。



# 注力領域② (国際業務)

- 国際業務では、外貨決済やシップファイナンスを中心とする外貨貸出の充実したサービスにより伝統的に強みを有し、**地銀でトップの水準**にあります。
- 2023年7月には、ベトナムにコンサルティングを行う現地法人「HYAKUJUSHI BUSINESS CONSULTING VIETNAM」を設立しました。  
情報収集・ビジネスマッチングに加え、進出後の支援まで一貫した対応しています。

## 国際業務

外国為替売買益 (2024年3月期)

**37億円**

**3位/地方銀行**  
**62行中**

※外国為替取引に伴う収益で、主に為替予約  
や為替デリバティブによる収益

外貨預金 (2024年3月期 平均残高)

**1,393億円**

**9位/地方銀行**  
**62行中**

国際業務貸出 (2024年3月期 平均残高)

**3,287億円**

**9位/地方銀行**  
**62行中**

## 海外進出支援

そこにある、星をつかみに。



2023年7月から2024年9月

コンサル契約件数 **14**件

ベトナムにおけるコンサルティング会社の設立は  
中四国の地方銀行として**初**

### 事例紹介

#### お取引先

業種 **金属製品製造業**  
課題 **価格面で海外製品と対抗  
できず、海外生産委託先  
の開拓を模索**

#### 営業店

・メイン取引先としてリレーション構築  
・課題をヒアリングし、HBCVと連携

HBCV (ベトナム現地法人)

・ベトナムでの生産委託先開拓から  
商談同行、委託契約のサポート等

連携

現地調査  
委託先開拓

# 注力領域③ (コンサルティング)

- 法人のお客さまと経営課題を共有し、課題解決に向けたコンサルティングに注力しております。
- 個人のお客さまへは、ライフイベントに応じたコンサルを実施し、長期的な資産形成・資産承継に伴走しています。

手数料を支払っても金融機関から受けたサービス

取引先・販売先の紹介	42.0%
支援制度の紹介や申請支援	35.3%
業務効率化 (IT化・デジタル化)	21.5%
事業承継に関するアドバイス	20.3%

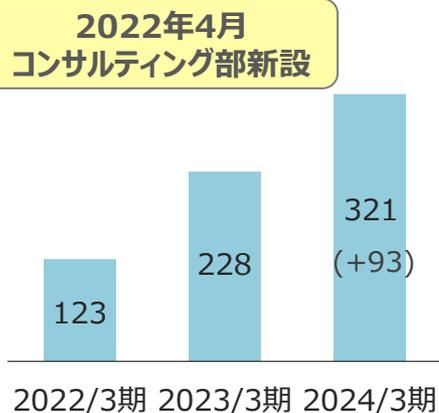
## 当行のコンサルティングメニュー

- 販路開拓支援 (ブランディング、ビジネスマッチングなど)
- ものづくり支援 (工場診断・補助金申請支援など)
- ICTコンサル (ICT導入・業務フロー見直しなど)
- 事業承継支援 (同族承継・エクイティ出資など)

出典：金融庁 令和6年6月「金融機関の取組みの評価等に関する企業アンケート調査」

## コンサルティング件数の推移 (件数)

(件数)

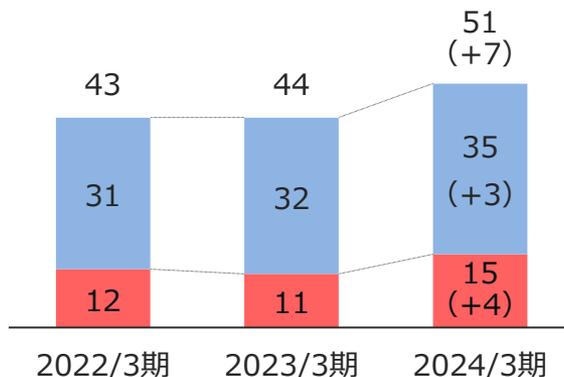


※ ( ) 内は前期比増減

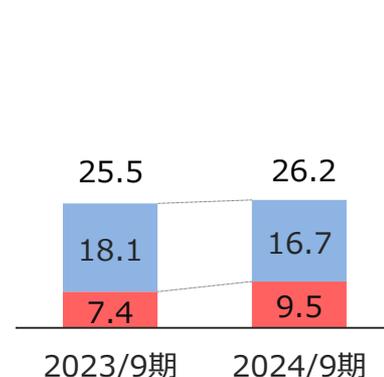
## コンサルティング手数料の推移 (億円)

(億円)

■ 法人コンサル ■ 個人コンサル



※ ( ) 内は前期比増減



百十四銀行について

**決算ハイライト**

成長戦略

中期経営計画の見直し

株主還元



# 2025年3月期第2四半期実績および見通し

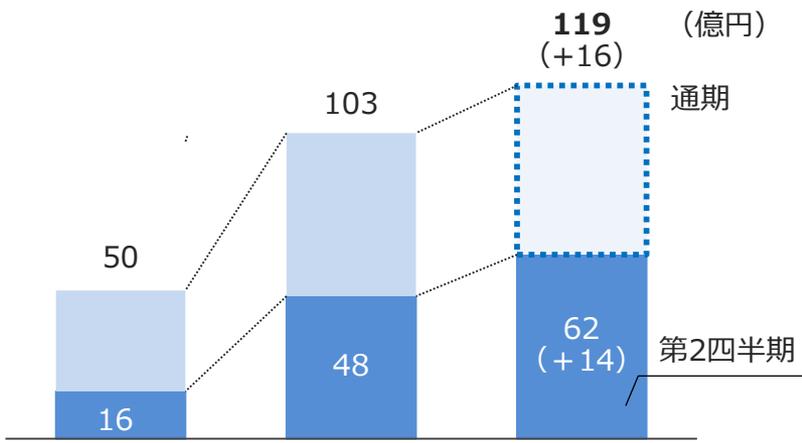
- 貸出残高の増加と貸出利回り上昇により、2025年3月期第2四半期の顧客向けサービス業務利益は、62億円（前年同期比+14億円）となりました。
- 2025年3月期第2四半期の親会社株主に帰属する当期純利益は、66億円（前年同期比+17億円）となりました。2025年3月期通期は、2024年5月時点では100億円と予想しておりましたが、2024年11月に115億円に修正しております。

単体

## 顧客向けサービス業務利益の推移

顧客向けサービス業務利益は、預貸金利鞘と手数料収入から経費を差し引いた指標で営業現場での稼ぐ力を表し、地方銀行の「本業の利益」と言われます。

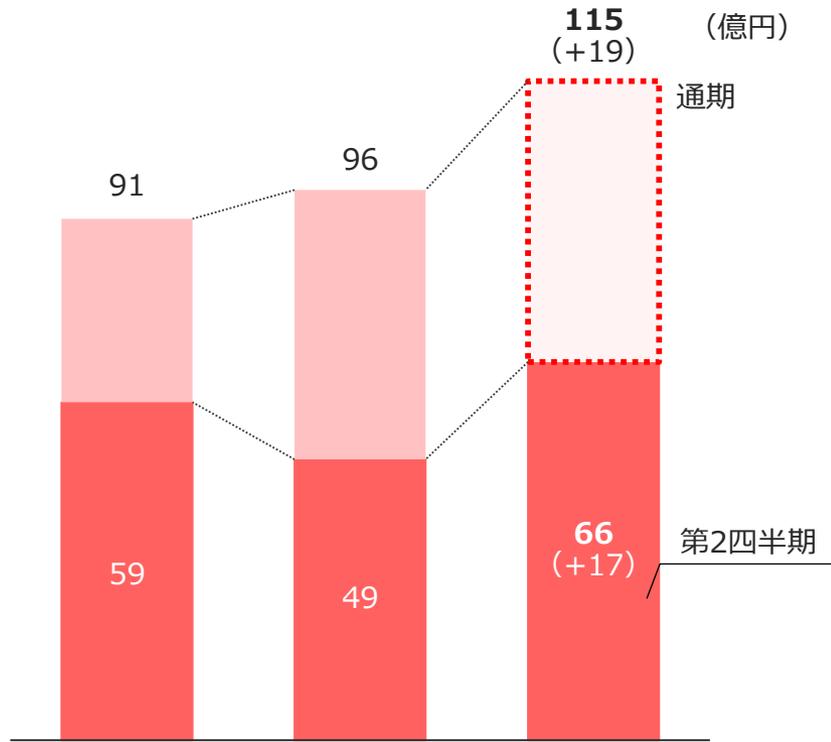
$$\text{顧客向けサービス業務利益} = \text{貸出金平残} \times \text{預貸金利回り差} + \text{役務取引等利益} - \text{営業経費}$$



※ ( ) 内は前年同期比増減

連結

## 親会社株主に帰属する当期純利益の推移



※ ( ) 内は前期同期比増減

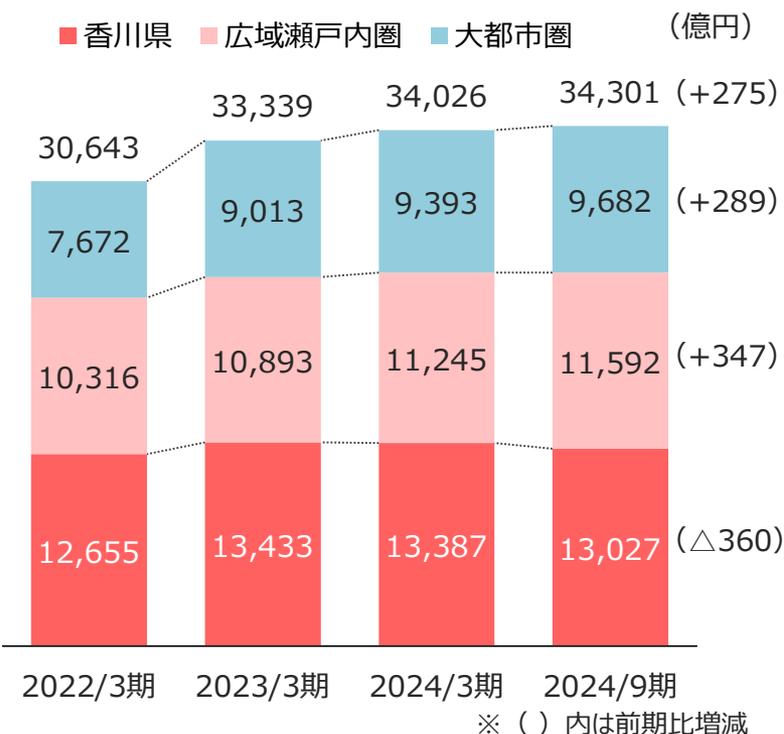
# 貸出金の状況

単体

百十四銀行

- 貸出金の期中平均残高は、公共向けの減少等により香川県が減少しましたが、広域瀬戸内圏・大都市圏において増加し、3兆4,301億円（前期比+275億円）となりました。
- 貸出金利回りは、日本銀行の金融政策変更等もあり1.17%（前期比+0.05pt）へ上昇しました。

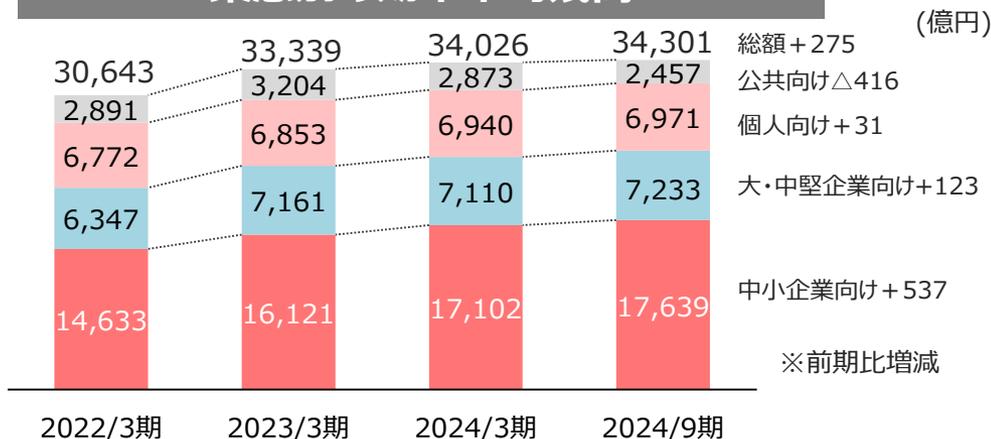
## 地域別の期中平均残高



**貸出金は順調に増加しています**

広域瀬戸内圏 [愛媛県、徳島県、高知県、岡山県、兵庫県、広島県、福岡県]  
 大都市圏 [東京都、愛知県、大阪府]

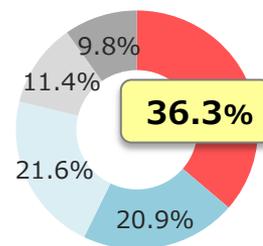
## 業態別の期中平均残高



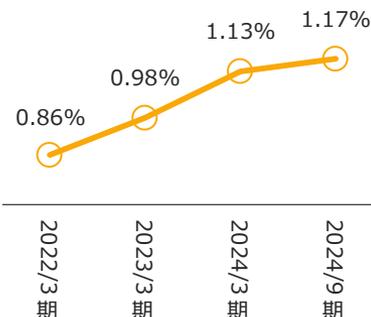
## 香川県内シェア 約4割

(2024年9月末)

- 当行
- 第一地銀（当行除く）
- 第二地銀
- 信用金庫
- 都銀



## 貸出金利回り



- 総預金の期中平均残高は、香川県および広域瀬戸内圏での増加により、4兆7,677億円（前期比+76億円）となりました。

## 地域別の期中平均残高

(億円)

■ 香川県 ■ 広域瀬戸内圏 ■ 大都市圏



※ ( ) 内は前期末比増減

**預金の香川県内シェアは約7割と安定した基盤を維持**

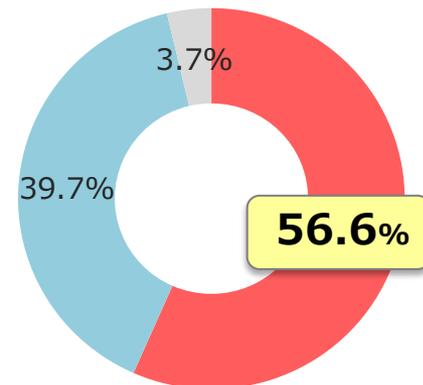
広域瀬戸内圏 [ 香川県を除く四国3県、岡山県、兵庫県、広島県、福岡県 ]

大都市圏 [ 東京都、愛知県、大阪府 ]

## 顧客別の預金シェア

(2024年9月期 期中平均残高ベース)

■ 個人  
■ 法人  
■ 公共

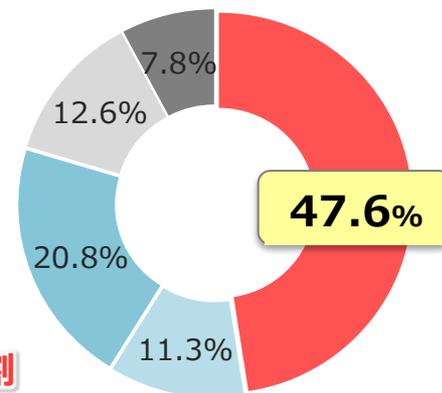


**個人向けが約6割**

## 業態別の香川県内シェア

(2024年9月末時点)

■ 当行  
■ 第一地銀 (当行除く)  
■ 第二地銀  
■ 信用金庫  
■ 都銀等

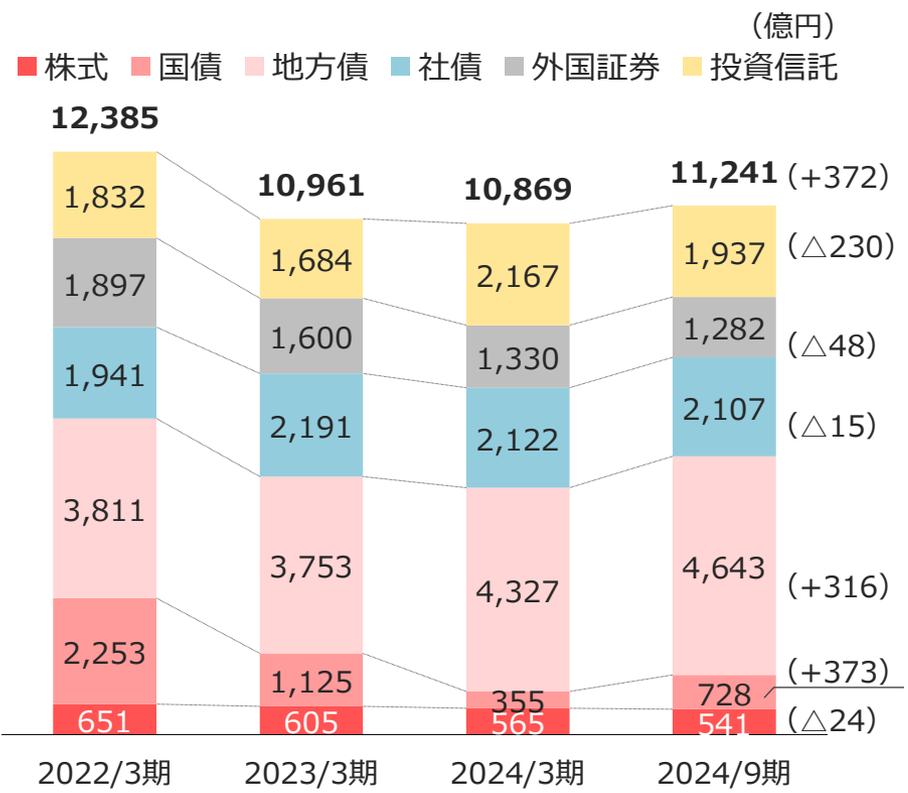


**香川県内シェアは約5割**

# 有価証券運用の状況

- 残存年数の短い国債や地方債を中心に買入を進め、2024年9月期の有価証券（平均残高）は1兆1,241億円（前期比+372億円）となりました。
- 株価上昇による株式評価益を1,064億円有しているため、有価証券全体では767億円の評価益となっております。

## 有価証券（平均残高）の推移

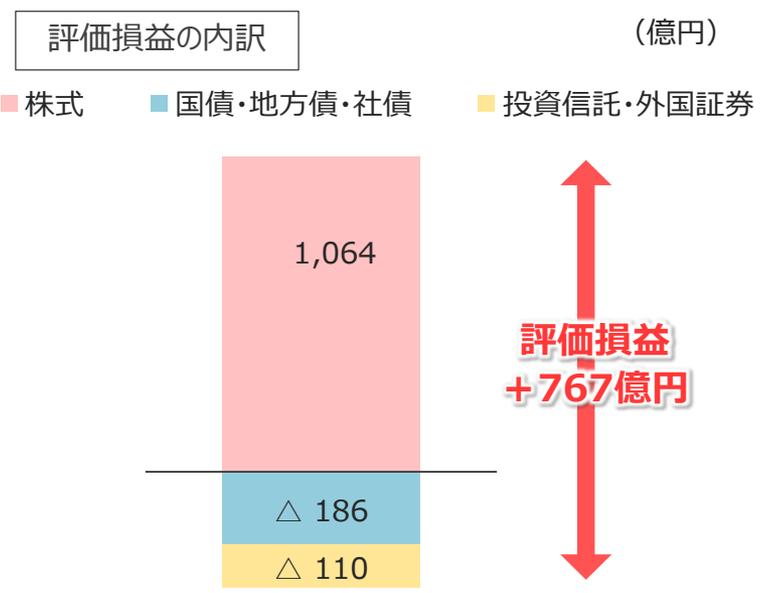


※（）内は前期比増減

## 有価証券評価損益

### 有価証券評価損益 (2024年9月末)

# +767億円



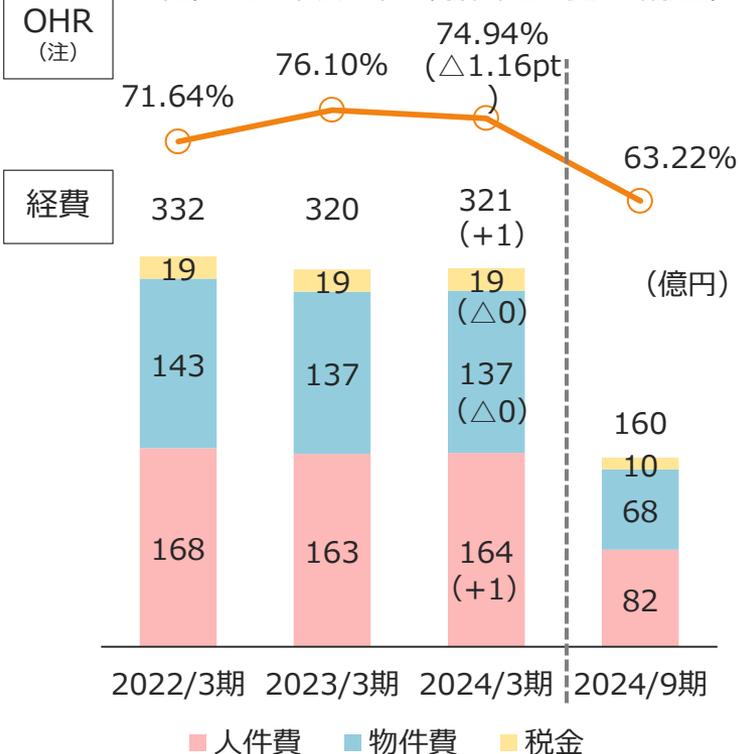
# 経費・OHR、自己資本比率および外部格付

- ベースアップ等による人件費の増加等があったものの、これまで進めてきた店舗統廃合等のコスト低減もあり経費全体は低下傾向にあります。
- 自己資本比率は、国内基準行に求められる水準を十分に上回り推移しています。外部格付機関よりA格を取得しており、健全性が高く評価されています。

連結

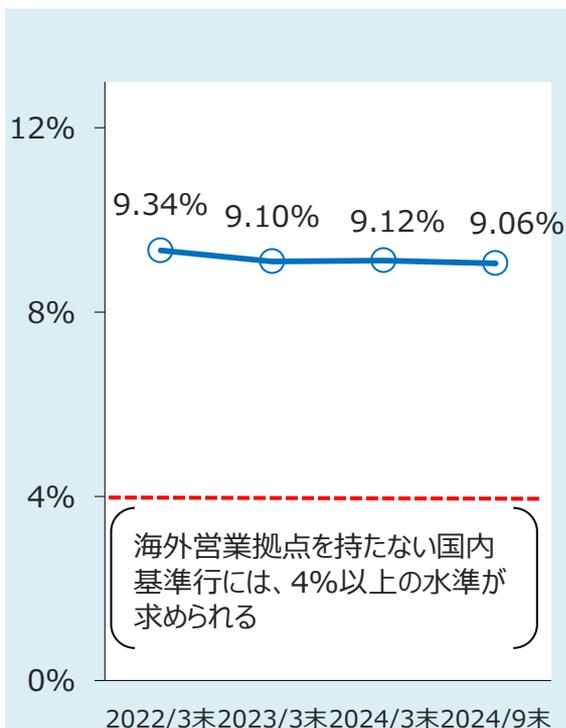
## 経費・OHRの推移

(注) OHR = 経費 ÷ (コア業務粗利益 + 債券関係損益)



※ ( ) 内は前期比増減

## 自己資本比率の状況 (国内基準)



※ ( ) 内は前期比増減

## 外部機関による格付

日本格付研究所 (JCR)

長期発行体格付



格付投資情報センター (R&I)

発行体格付



(2024年10月現在)

👉 OHRは改善傾向

👉 求められる水準以上の健全性

👉 高い信用力

百十四銀行について

決算ハイライト

**成長戦略**

中期経営計画の見直し

株主還元



- お客さま・地域・株主のみなさまから「百十四いいよ！」と言っていただけるような付加価値の高いサービスを提供していくことで、“地域のみんな”がウェルビーイングを実感できる「いい世の中」の実現と、百十四グループの経営のサステナビリティ向上をめざします。

## 中期経営計画 「創ろうい・い・よ♪」 (2023年4月～2026年3月)

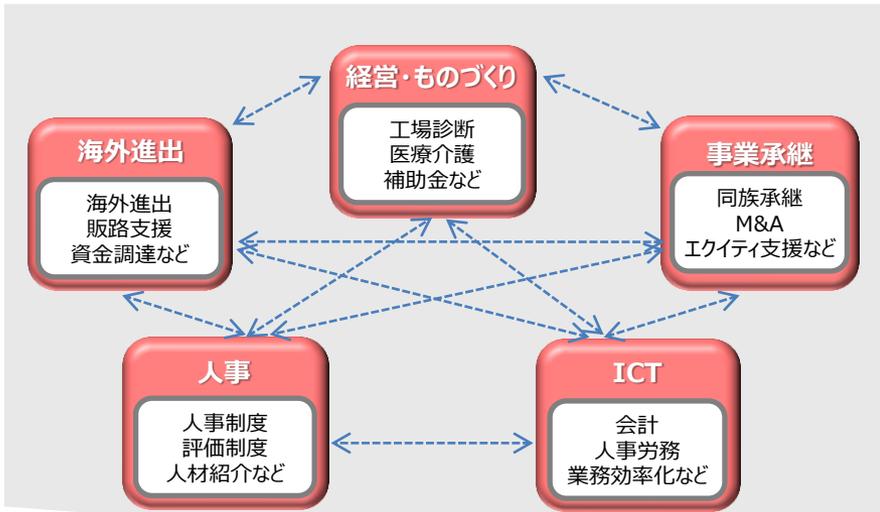
### ■ 重点戦略

1. 総合コンサルティング・グループの進化
2. 職員のウェルビーイング向上
3. 生産性の飛躍的向上
4. 持続可能な経営基盤の構築

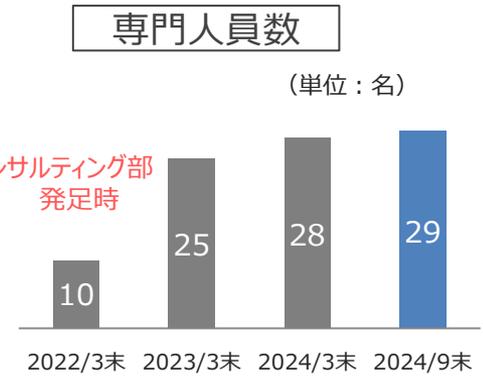
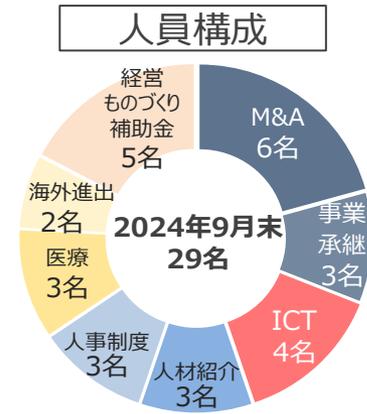


# 法人のお客さまへの取組み

- 法人のお客さまの様々な課題を解決するために、コンサルティング業務に取り組んでいます。
- 課題解決力強化により、金融・非金融の両面でお取引のメイン化を図ります。



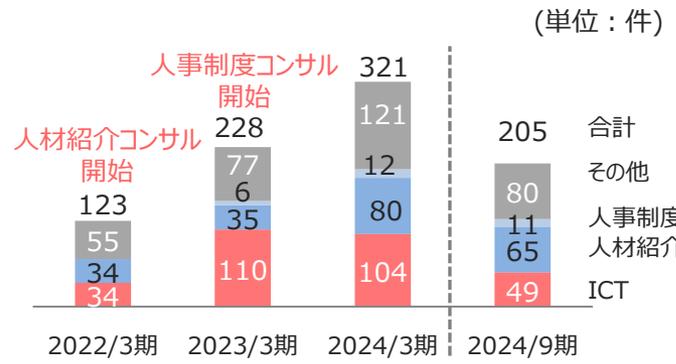
## 専門性の高い人材育成と人員増強



## コンサルティング収益力の向上

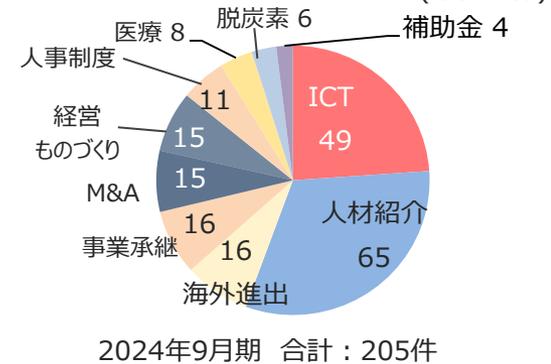
### コンサルティング件数の推移

継続的にコンサルメニューを受注し、件数は順調に増加。



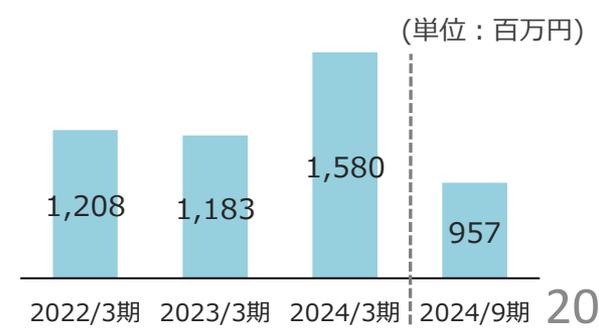
### コンサルティング件数内訳

収益の多様化を図るとともに新しく導入したメニューに注力。



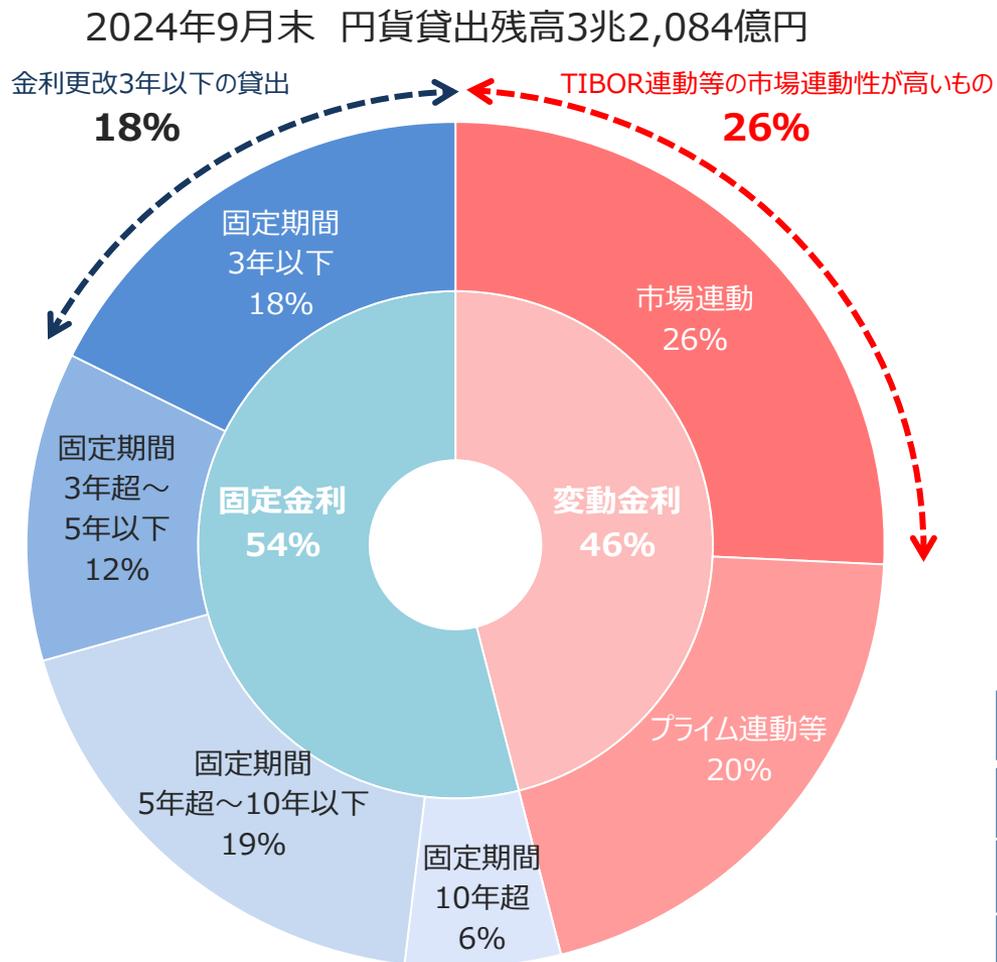
### 法人コンサル収益の推移

コンサルティング領域を広げ、持続的な収益増加を図る。



- 金融政策の変更を踏まえ、お取引先との対話を重ね、収益力の向上を図っていきます。

## 円貨貸出金の金利別内訳

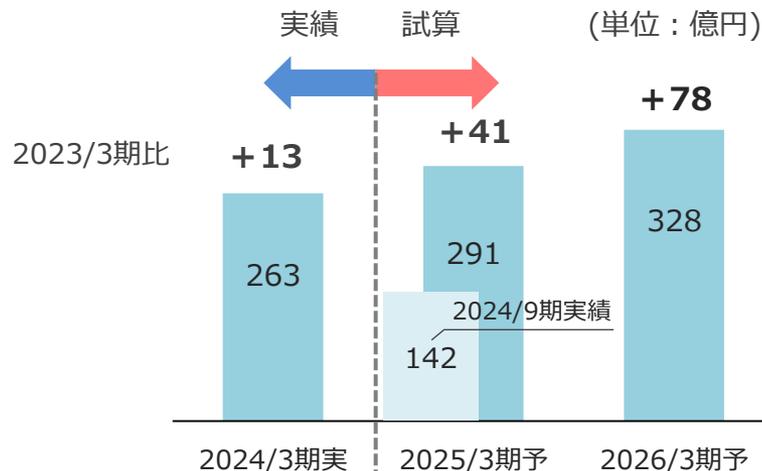


## 円金利上昇による影響試算

### 円貨貸出金の利息収入

試算の前提条件

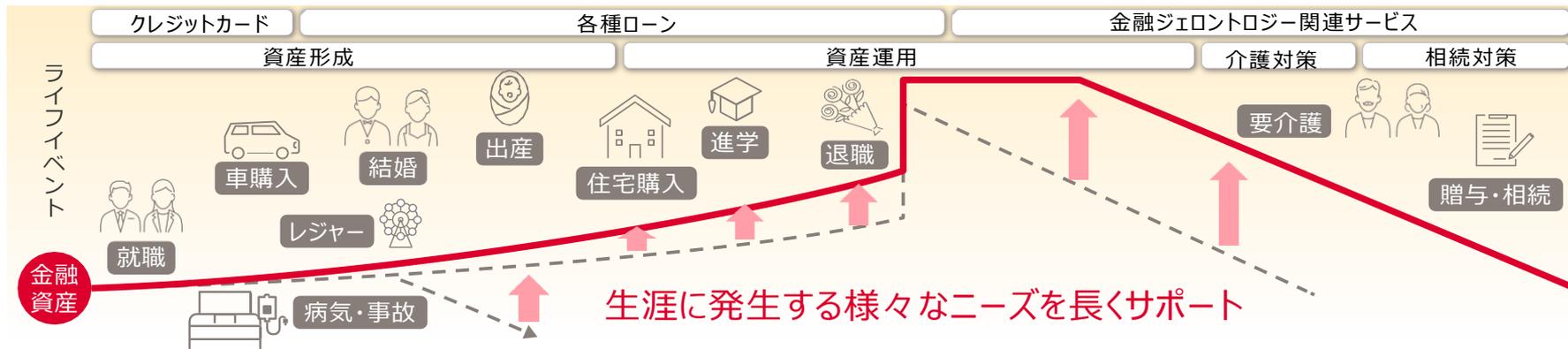
- ・ 試算時期 2024年4月
- ・ 貸出金残高 2024年3月末から横這い
- ・ 金利 期末にかけて段階的に上昇



	2024/3期実	2025/3期予	2026/3期予
政策金利	0.10%	0.25%	0.50%
3M TIBOR	0.26%	0.35%	0.60%
5年国債	0.35%	0.60%	0.80%
10年国債	0.72%	1.20%	1.40%

# 個人のお客さまへの取組み

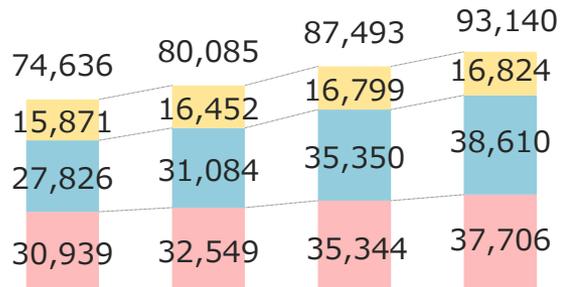
- 人生100年時代におけるお客さまのさまざまなニーズを長くサポートし、生涯価値（ライフタイムバリュー）の向上につなげるコンサルティングを実践しています。



## 預り資産契約数（積立）

資産形成層のニーズが高い積立商品の契約件数は増加。

(単位：件数)



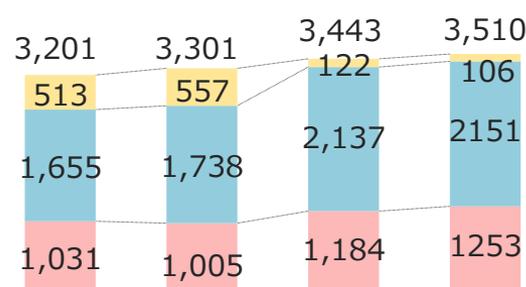
2022/3期 2023/3期 2024/3期 2024/9期

■ NISA ■ 投信積立 ■ iDeCo

## 預り資産残高

新NISAを活用した投資信託や一時払保険販売に注力。

(単位：億円)



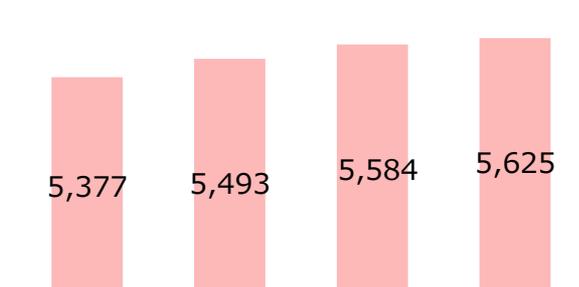
2022/3期 2023/3期 2024/3期 2024/9期

■ 投資信託 ■ 一時払保険 ■ 金融商品仲介

## 住宅ローン残高（期中平均残高）

家計収支や保険のご相談等を起点に住宅ローンを積み上げ。

(単位：億円)



2022/3期 2023/3期 2024/3期 2024/9期

- 地方公共団体等との共創体制を構築し、「ひと」と「しごと」の好循環を支える「まち」の活性化に取り組んでいます。
- 地域課題の解決に自ら取り組み、地域と百十四グループの持続的成長を実現します。

## 観光コンテンツの造成

金刀比羅宮と地元活性化に向けて参拝者増加を図るため、「伝統文化」「海の神様」をテーマとした**高付加価値な体験型ツアー**を作成しました。



特別なコンテンツを造成し**海外富裕層の誘客促進**

## 地方創生への取り組み

香川県や医師会と連携し、後継者不在の開業医と承継希望の医師をマッチング。医療機関・診療所の廃業を防ぎ、地域医療の継続と発展を支援しています。

内閣府より令和5年度  
地方創生に資する金融機関等の  
**「特徴的な取組事例」**  
に選定されました



## 企業版ふるさと納税支援による地域活性化

香川県下の自治体と**企業版ふるさと納税制度**に関する連携協定を結んでいます。ふるさと納税制度を通じて地域活性化へつなげています。

### ふるさと納税の活用事例

特別名勝「栗林公園」  
の魅力向上



瀬戸内国際芸術祭  
の運営



香川県内**11市町村**（高松市、三木町、さぬき市、宇多津町、多度津町、琴平町、まんのう町、観音寺市、三豊市、小豆島町、土庄町）と企業版ふるさと納税に関する連携協定を結んでいます。

定住・移住の促進



2024年10月末時点

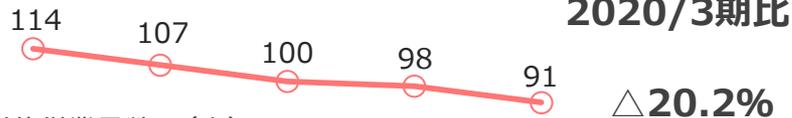
# 成長投資への取組み

- これまで進めてきた構造改革により人員の適正化とコスト低減を実現してきました。
- 構造改革の効果から人的資本やデジタル関連等、戦略的な投資は積極的に行い、成長分野を強化していきます。

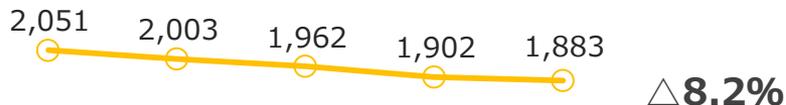
## 構造改革の効果

人員の適正化とコスト低減を実現

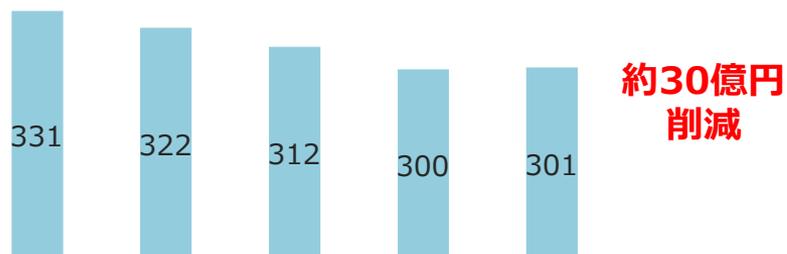
拠点数※ (箇所)



単体従業員数 (人)



物件費・人件費 (億円)



'20/3期 '21/3期 '22/3期 '23/3期 '24/3期

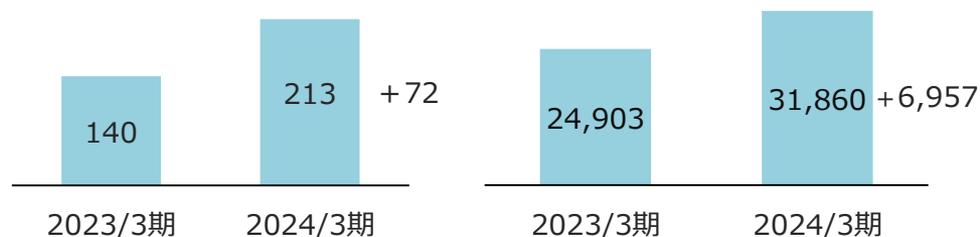


※クイックスクエア・振込支店を含む、店舗内店舗含まず

## 人的資本への投資

専門人材育成やリスキング等の**人的資本への投資を強化**

【人的資本投資額※】 (単位: 百万円) 【研修延べ時間】 (単位: 時間)



※教育研修費、長期研修参加者人件費等

## DXへの投資

DX投資により**お客さまへの提供価値の向上**を促進

【システム関連投資額】



法人ポータルによる非対面チャネル提供

生成AIを活用した業務変革

データ分析・可視化による営業活動向上

# 気候変動等、環境課題への取り組み

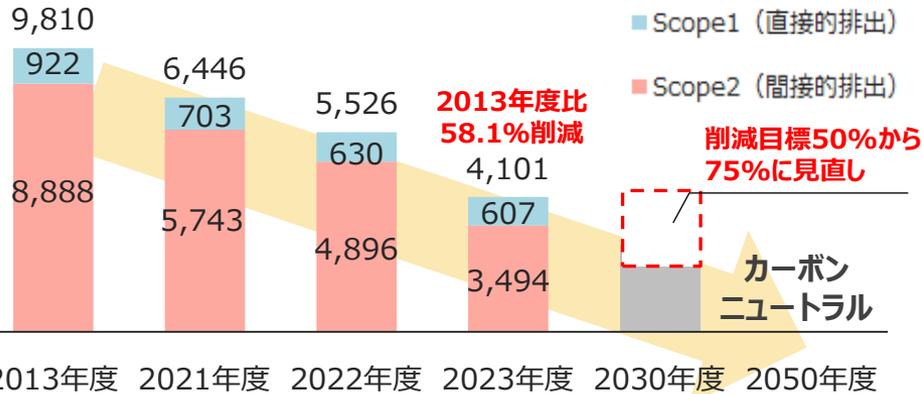
- 持続可能な地球環境や社会の実現に向けた取り組みを行っております。

## CO2排出量の削減状況

2023年度のCO<sub>2</sub>排出量（Scope1及びScope2）は、2013年度比で**58.1%減少**しました。

2030年度目標を2013年度比50%削減から**75%削減**へ見直しました。

### 【当行のCO<sub>2</sub>排出量】



## 所有資産の有効活用を通じたCO2削減

当行保養所の跡地に、太陽光発電設備を建設。発電した電力全量を自己消費することにより、CO<sub>2</sub>排出量を削減しています。



「エネルギー利用環境負荷低減事業適応計画」の認定を受けました。  
⇒ **銀行業では国内初**

新築店舗は、CO<sub>2</sub>排出量を**実質ゼロ**とする『ZEB』（ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング）としています。



建物に必要な電力を省エネと創エネを活用し、CO<sub>2</sub>排出量を**0%へ**

## ESG評価の向上

「グリーンパートナー2023」（森林づくり部門）



林野庁から**森林保全活動とCO<sub>2</sub>吸収量**等の取り組みが評価され選定

FTSE Russell ESGレーティング  
**2.8** (2024年回答ベース)

FTSE Blossom Japan  
SectorRelative Index構成銘柄  
に選定

CDP気候変動スコア  
前年度評価Cを上回る  
**B-**評価を取得  
(2023年回答ベース)

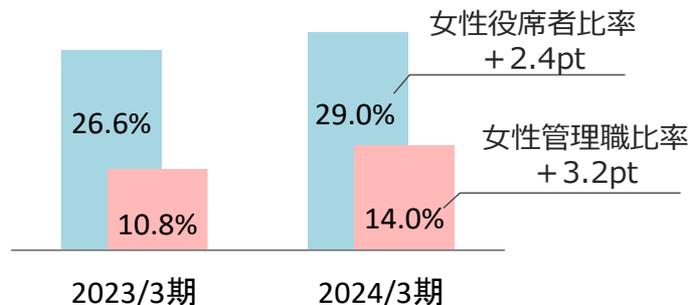
- 誰もが安心して活躍できる職場環境づくりに努めております。
- 健康経営・子育てサポート・女性活躍などの社内環境整備や人材育成に対して、複数の評価認定を取得しています。

## 多様な属性が活躍できる環境整備

### 男性の育児休業等取得率

**100%** (2024年3月期)

### 女性役席者比率・女性管理職比率



女性役席者比率：営業店の支店長代理・本部の調査役以上

女性管理職比率：営業店の次長・本部のグループ長以上

### 副業制度

主体的なキャリア形成や能力開発を支援。副業を通じて得た知識・スキル・人脈を地域貢献や百十四グループの企業価値向上へつなげる。

神職の資格を活かした副業で地域貢献を実施



**誰もが活躍できる職場環境づくり**

## 職場環境への評価



2024  
**健康経営優良法人**  
Health and productivity  
ホワイト500

**健康経営優良法人**  
2024年3月、四国の金融機関として唯一「ホワイト500」を取得



### プラチナくるみんプラス

子育てサポート企業として、2022年11月に香川県内企業において初の取得



### えるぼし

女性活躍推進法に基づき、女性の活躍に関する取組みが優良な企業として2016年7月に四国内企業において初の取得

**社内環境整備や人材育成に高い評価**

百十四銀行について

決算ハイライト

成長戦略

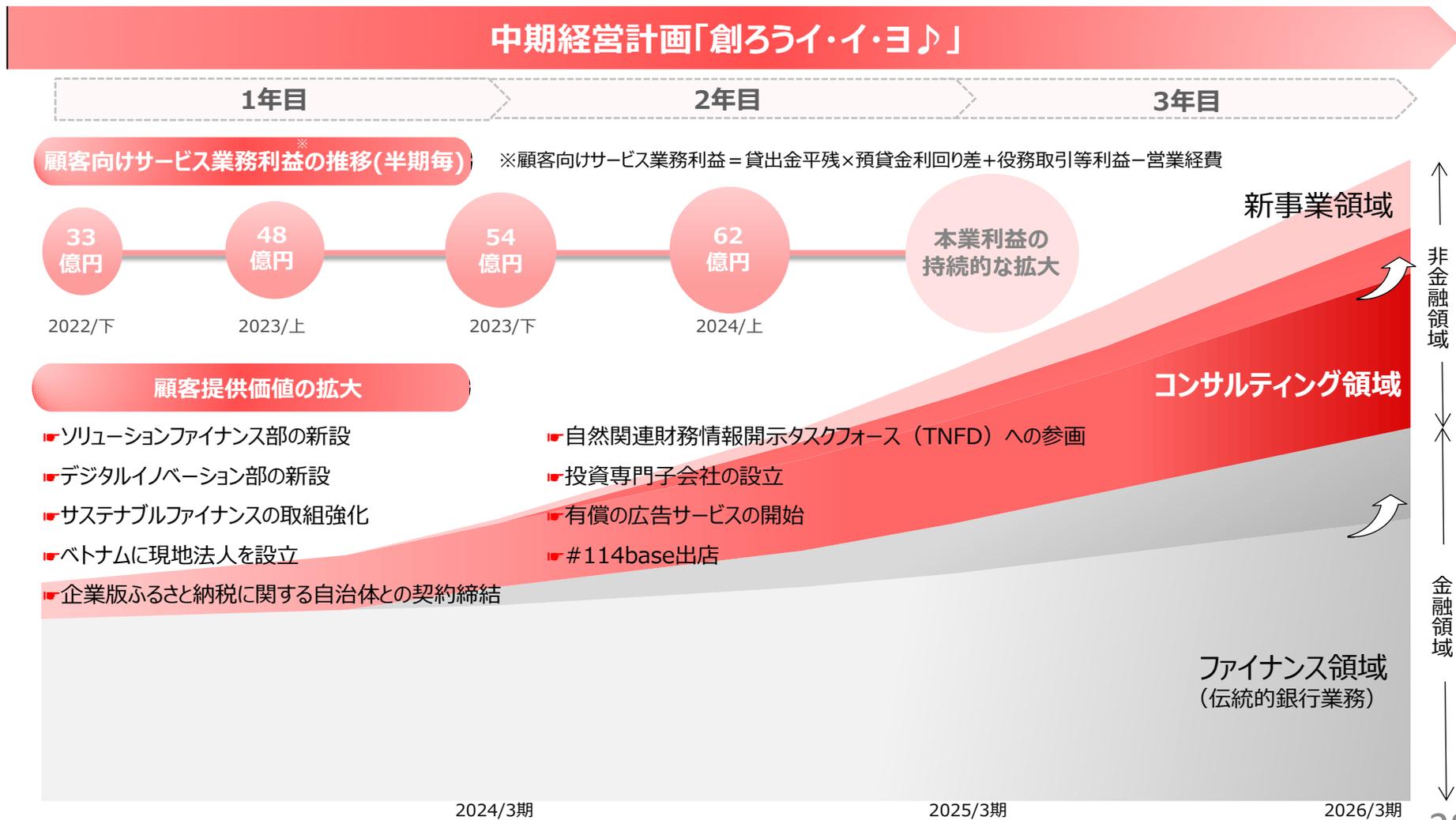
**中期経営計画の見直し**

株主還元



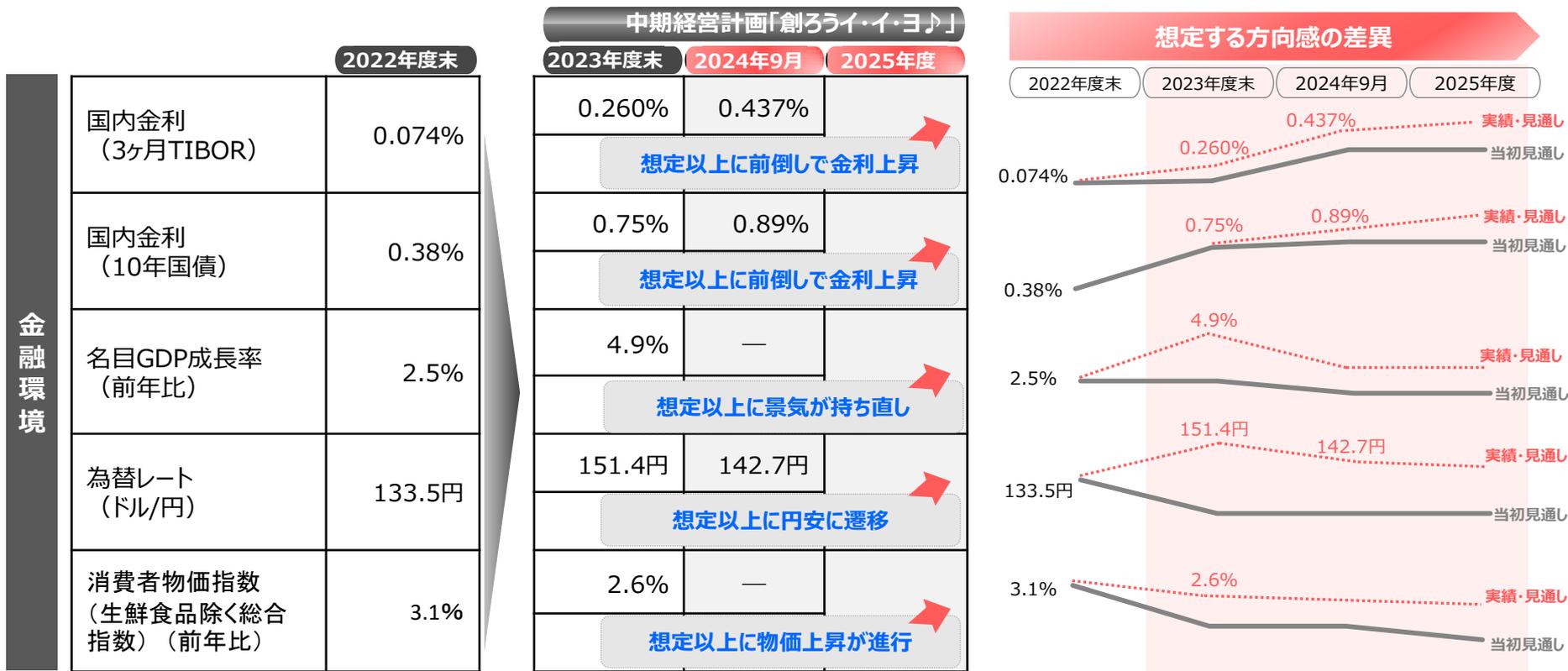
# 中期経営計画の見直しの背景①

- 長らく続いた低金利環境が転換期を迎え、「総合コンサルティング・グループの進化」を通じた金融・非金融のシナジー創出効果が高まったことで、当行グループの"本業での稼ぐ力"は強化されています。



# 中期経営計画の見直しの背景②

- 新型コロナウイルス感染症の5類移行による経済活動の活性化や、低金利環境の転換など、金融・経済環境は、計画策定時の想定よりも前倒しで好転し、当行グループの経営に大きな追い風となっています。



**経済情勢**

**中期経営計画策定時点**

長引く新型コロナウイルス感染症の影響や、ロシアによるウクライナ侵攻をきっかけとした地政学リスクの顕在化を背景に、先行きの不透明感が高まっている状況。

**中期経営計画見直し時点**

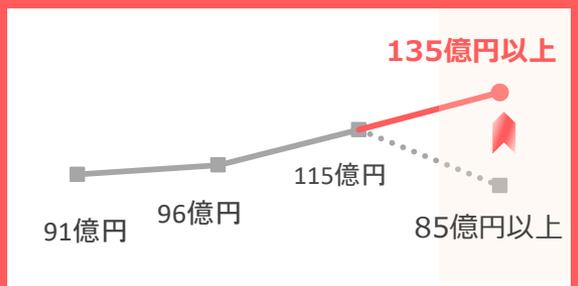
新型コロナウイルス感染症の5類移行による早期の経済活動の回復や、緩やかな金融環境の正常化により成長期待が高まっている状況。

# 中期経営計画の見直し

- 当初の経営目標である2025年度親会社株主に帰属する当期純利益「85億円以上」を「135億円以上」へ上方修正しました。
- コスト面は、人的資本投資を進めていることによる人件費の増加・物価高騰等の上振れ要因があるものの、保有有価証券において、ポートフォリオ改善に向けたロスカットが一巡したことを背景に、単体OHRについても併せて修正しました。

		2022年度 (前中計最終年度)	2023年度 (1年目実績)	2024年度 (2年目予想)	...	見直し後 2025年度 (最終年度目標)	見直し前 2025年度 (最終年度目標)
収益性	連結 親会社株主に帰属する当期純利益	91億円	96億円	115億円		135億円以上	85億円以上
健全性	連結 自己資本比率	9.10%	9.12%	9.03%		9.0%程度 (変更なし)	9.0%程度
効率性	単体 OHR※ (業務粗利益ベース) ※ 経費÷業務粗利益	76.1%	74.9%	67.3%		65%程度	70%程度

連結 親会社株主に帰属する当期純利益



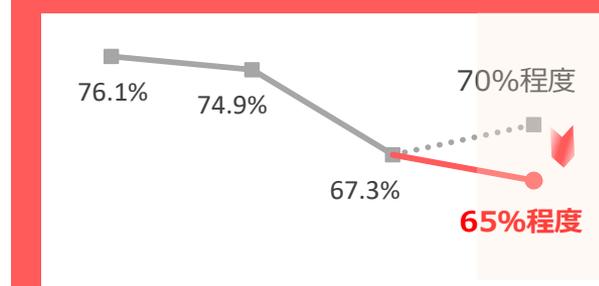
2022年度 2023年度 2024年度 2025年度

連結 自己資本比率



2022年度 2023年度 2024年度 2025年度

単体 OHR (業務粗利益ベース) ※



2022年度 2023年度 2024年度 2025年度

百十四銀行について

決算ハイライト

成長戦略

中期経営計画の見直し

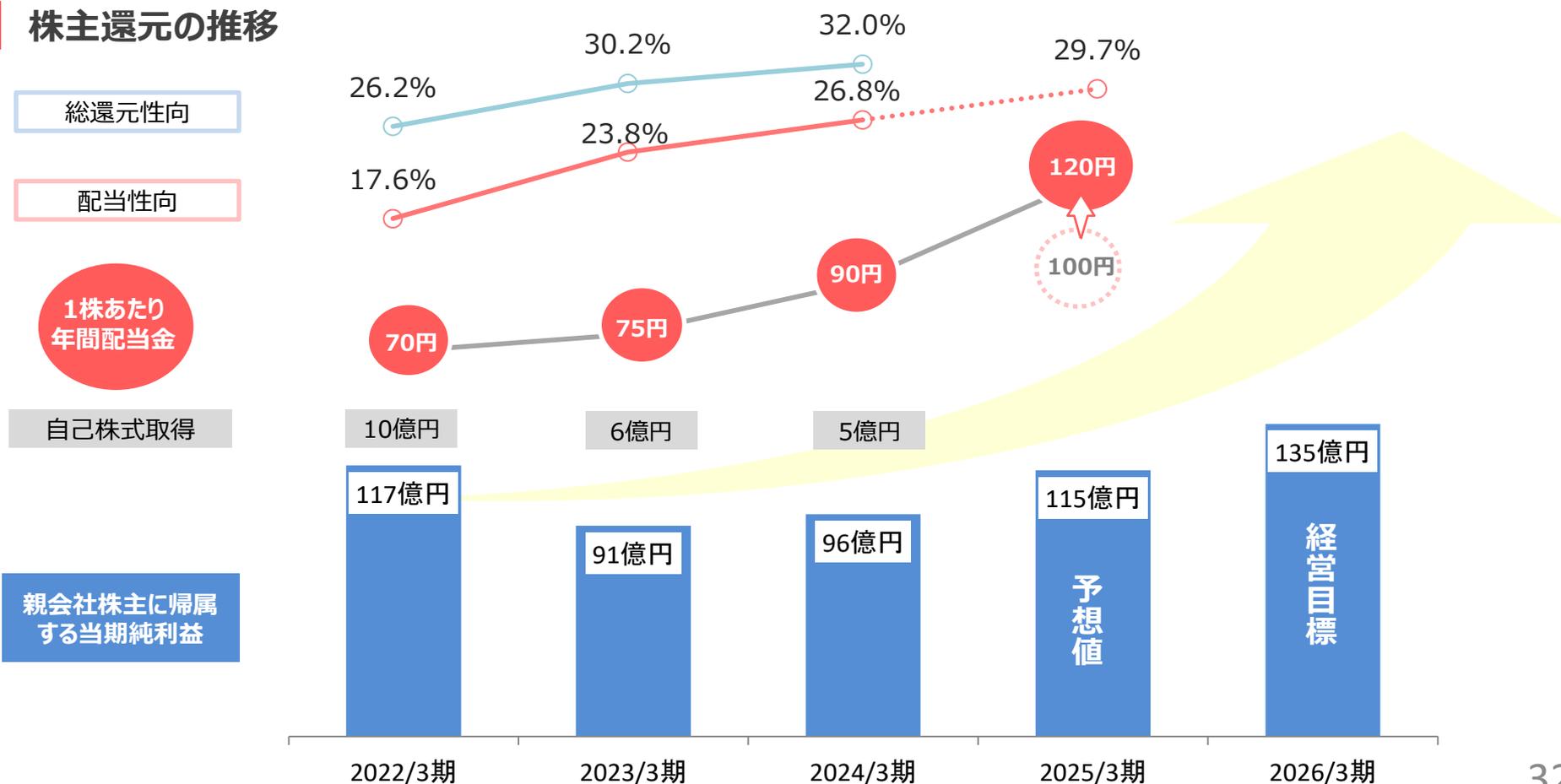
**株主還元**



# 配当実績及び見通し

- 配当については、安定的な利益還元配慮しつつ、内部留保の充実度合い、利益の状況及び経営環境等を総合的に考慮した上で実施しています。
- 総還元性向30%程度を目安とし、経済環境等を勘案のうえ、株主還元を検討します。
- 2025年3月期の1株あたり年間配当金の予想を、2024年5月時点では100円としておりましたが、2024年11月に120円に修正しております。

## 株主還元の推移



# 株主優待制度

- 株主さまへの還元の一環として、株主優待制度をご用意しております。
- 香川県の特産品やSDGsの主旨に沿った寄付などをお選びいただけます。

対象となる株主さま	3月末現在で100株以上を1年以上継続保有 <sup>(※)</sup> いただいている株主さま	
概要 (保有株数に応じて 専用カタログを送付)	保有株数100株以上500株未満	2,500円相当の香川県産品
	保有株数500株以上	5,000円相当の香川県産品

(※) 1年以上継続保有とは、基準日(3月末日)とその前年の3月末日及び9月末日の株主名簿に同一株主番号で100株以上の保有記録が連続して記載、または記録されていることとします。

## 香川県産品

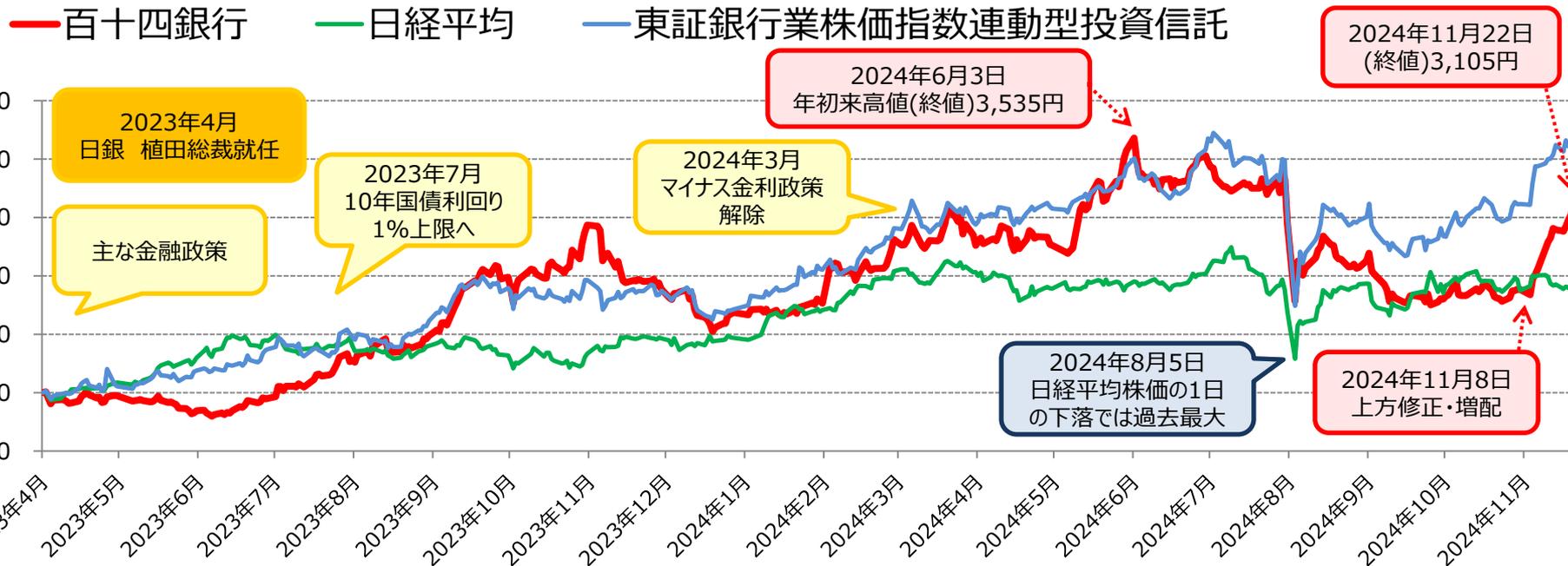


## 寄付コース



## 株価の推移 2023年4月1日から2024年11月22日

2023年4月1日を100として指数化



## 主な株式指標 (2024年11月22日時点)

	2024年9月30日 (終値)	2024年11月22日 (終値)
株価	2,475円	3,105円
PER	6.11倍	7.67倍
PBR	0.20倍	0.26倍

PER (株価収益率) = 株価/1株当たり利益 (2025年3月期通期予想)

PBR (株価純資産倍率) = 株価/1株当たり純資産 (2024年9月期)

## 配当利回り

当行	プライム市場平均
3.86% ※1	2.14% ※2

※1) 1株あたり配当金予想120円/株価3,105円 (2024年11月22日終値)

※2) 「日本取引所グループ」 (2024年10月 プライム加重平均利回り)

本説明資料や I R 全般に関するご意見・ご感想・お問い合わせは、  
下記までお願いいたします。

株式会社百十四銀行 経営企画部 経営企画グループ

電 話 0 8 7 ( 8 3 6 ) 2 7 8 7

F A X 0 8 7 ( 8 3 6 ) 3 6 7 7

E - m a i l keiki.kikaku@114bank.co.jp

HPアドレス <https://www.114bank.co.jp/>

- ◆ 事前に百十四銀行の許可を得ることなく、本資料を転写・複製し、または第三者に配布することを禁止いたします。
- ◆ 本資料は情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。
- ◆ 本資料に記載された事項の全部または一部は予告なく修正または変更されることがあります。
- ◆ なお、本資料に含まれている将来の業績に係る記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、将来の業績は経営環境の変化等の様々な要因により変動する可能性がありますことにご留意ください。

